



2019年12月26日

各位

会社名 タキヒヨー株式会社
 代表者名 代表取締役社長執行役員 滝 一夫
 (コード番号 9982 東証・名証市場第一部)
 問合せ先 取締役専務執行役員
 スタッフ部門統轄 武藤 篤
 (TEL. 052-587-7111)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、2019年3月28日に公表いたしました2020年2月期通期の業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 2020年2月期通期 連結業績予想の修正(2019年3月1日～2020年2月29日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	66,800	600	600	400	42.88
今回修正予想(B)	60,700	50	100	60	6.43
増減額(B-A)	△6,100	△550	△500	△340	—
増減率(%)	△9.1	△91.7	△83.3	△85.0	—
(ご参考)前期実績 (2019年2月期)	64,815	101	209	△1,621	△173.80

2. 2020年2月期通期 個別業績予想の修正(2019年3月1日～2020年2月29日)

	売上高	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	60,400	500	350	37.52
今回修正予想(B)	54,600	△140	△170	△18.23
増減額(B-A)	△5,800	△640	△520	—
増減率(%)	△9.6	—	—	—
(ご参考)前期実績 (2019年2月期)	58,331	281	△1,372	△147.14

3. 業績予想の修正理由について

(1) 連結

衣料品市場においては、大手アパレルメーカーや大手GMSが思い切った構造改革に向けた計画を打ち出しており、衣料品の売り場は今後さらに縮小していくことが見込まれます。また外資系ファストファッションの日本撤退の一方で、ECによる衣料品販売額はGMSを上回り百貨店に迫る状況となっております。

加えてサブスクリプション（月単位などの定額利用）やフリマ（ネットを介した消費者間の売買）が普及するなど衣料品市場は、大きな転換期に入っていると認識しております。

こうした中、当社では全社テーマとして「バックホーム（原点回帰）」を掲げ、商品毎・得意先毎の適正な利益率の確保による売上総利益率の向上、付加価値の高い商品群の企画拡充や提案強化による売上拡大に取り組んでいるところでありますが、天候要因や得意先における「引き付け型発注」（店頭の実需動向から発注時期を慎重に見極める）の影響を受け、これまで年間を通じて売上高のピークであった冬物の動きが悪く先物受注も足踏み状態が継続いたしました。特にレディース向け商品の売上高は低調に推移し、売上高は前回予想を9.1%下回る見込みとなりました。

損益面においては、売上総利益率の向上や販売管理費の削減を進めてまいりましたが、減収の影響をカバーするに至らず、前回予想対比で、営業利益は550百万円、経常利益は500百万円、親会社株主に帰属する当期純利益は340百万円下回る見込みとなりました。

(2) 個別

連結業績予想と同様の理由により前回予想を修正いたします。

4. 配当予想について

期末配当予想につきましては、2019年3月28日に公表いたしました1株当たり20円から変更はありません（年間配当金40円）。

以上